

ダイズのハスモンヨトウに対する薬剤の殺虫効果について

1. 目的

米の重要な転換作物としてダイズ生産が推進されているが、ダイズ栽培における重要害虫であるハスモンヨトウに対して、他県では薬剤の感受性低下が報告されている。そこで、県内各地から採集したハスモンヨトウについて、ダイズに登録のある薬剤の殺虫効果を検定し、防除対策の資料とする。

2. 試験方法

1) 供試虫

下記の地域から卵塊の採集を行い、ふ化幼虫を人工飼料(インセクタ LF)で飼育した。検定には採集卵塊の3齢幼虫を供試した。

採集地	採集日	採集作物	採集卵塊数
熊本市秋津町	平成13年8月28日	ダイズ	3
大津町新	平成13年9月26日	ダイズ	3
岱明町野口	平成13年9月8日	ダイズ	2
嘉島町上六嘉	平成13年9月8日	ダイズ	3
竜北町若洲	平成13年9月8日	ダイズ	3
上村上	平成13年9月14日	ダイズ	3

2) 供試薬剤

主に県の病虫害防除基準に採用している下記の薬剤を供試した。

薬剤の系統	薬剤名	有効成分(量)	検定濃度
IGR 剤	ノーモルト乳剤	テフルベンス [®] ロン (5%)	2000 倍
	ロムダンフロアブル	テブフェジト [®] (20%)	2000 倍
合成ピレスロイド剤	トレボン乳剤	エトフェンブ [®] ロックス (20%)	1000 倍
カーバメート剤	ラービフロアブル	チオジカルブ [®] (32%)	750 倍
	ランネート 45 水和剤	メミル (45%)	1000 倍
有機リン剤	カルホス乳剤	イキチオン (50%)	1000 倍
	エルサン乳剤	PAP (40%)	1000 倍

3) 検定方法

葉片浸漬法で行った。検定濃度に調整した薬液（展着剤：ミックスパワー，3000倍）に、直径6.5cmのキャベツ葉を30秒間浸漬し、風乾させた。直径9cmのシャーレに風乾後のキャベツ葉を2枚ずつ入れ、これに供試虫を10頭接種した。これを25℃、長日条件（16L-8D）の恒温室に置き、120時間後に死虫数を計数した。なお、苦悶虫は死虫とし、1薬剤につき10頭×3反復で行った。共食い等により不明となった虫は、供試しなかったものとして扱った。

3. 結果及び考察

処理120時間後の補正死虫率を別紙1、2に示した。

- 1) ノーモルト乳剤、ラービフロアブルは他の供試薬剤と比較すると、高い殺虫効果を示し地域間差も小さかった。しかし、ノーモルト乳剤と同じIGR剤であるロムダフロアブルでは、補正死虫率が全体的にやや低い値となった。
- 2) トレボン乳剤、ランネート45水和剤、カルホス乳剤の補正死虫率は、地域により大きく異なった。エルサン乳剤における補正死虫率は、どの地域も80%を超えておらず、大津町では0%であった。
- 3) 地域別に見ると大津町の個体群は、全体的に補正死虫率が低い値となっているが、この原因は不明である。
- 4) 本種は同一地域内においても薬剤感受性の異なる個体群が混在している場合が多く、今後において感受性低下も予想されるため、薬剤の系統を替えてのローテーション散布を行う。